海棠潮未歸志 前編 上

八島西雲

三冊

光文堂

へ13
2947
40

へ13
2947
40
特

本清

自序

三歩の黄金を擲て七五三
の雀鮨と甘さる江戸節乃雅
楽あり、六百の孔方を費て二三
行の徳利を傾る板入節乃鄭
聲あり、鄭聲雅楽を乱るも

宮内省図書寮

流行ふ後生て雅なんとハ寧
當世手通ず俗と称まん五色
潮来の変化自在なる順回拍久
乃書意即妙なり崎節ハ
古へより持て朝来の今ハ至る迄
字餘りの曲まるも二上りハ直る

も新内朝来其名よりて新しき
内を慈し聴ぬ耳ハ手マグくもて
とやきり虎門の親玉ハきさきの讃
岩と行ても松本大七さみせんどうしてと
唄るも都て切落の俗ハ近ち拍久
より生ずるものなれ俗ハ捷きと想ひ一日

潮来に遊ぶ。通り一篇の書を著し名を潮来婦誌とふ。密かに潮来を色所、唱呼江東一都會なるを知る耶、

江戸　式亭三馬題

潮来婦誌巻之上

江戸　式亭三馬著

發端

大洗の楫取の宮は宮柱ふとしきたてゝ千木高しり河岸。廉亀治の門前は漁業通の生業と性さ来さの津の宮ふゆるの名所百と称す。扨此宮と志ゝ嶺み二字塗り出でゝ芸業を成す。江戸者二人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

主の好てゝらい屋は若旦那。好ぐく有るの人形ッ。

【後】サア〳〵酒と肴よう。てあへ出来ると言ぐ家の者と

とんご新しい。【吉】お服と行ぐ食べう。てあいのて

うと申〳〵ヨイ行で出来るの。【男】ハイ鯉のうよ養ぐ出来

うと【吉】おんご。鯉のこまふ。ちいんは生れてくらぐめてご

【後】物をたりごまぐ食てヨ申〳〵。角鯉のとこ

のれる八寸出る【吉】ハアめ〳〵ぐ鯉ふ木のあ鯉そ。へんぷらい

こてわんご一口合くヨんや【後】出いんは出れいう酒

めゝへ鯉のとぐんこ出んご【天】ハイ〳〵【吉】鯉ふ出て

能墨色ぐや鯉ゝ【後】【吉】乳ゝ三圍ふ通ようも

ゝ一句詠ゝ行せう

三十三句ふ出ゝとべいう【後】それ行ぐ【吉】数句よ。

【後】べゝぐゝ札所ぐやめ。しぐこの國ふ三十三句

の数句ぐめる祝う【吉】てあへ出ゝ鯉ゝ。扨れぐ三十三句と注

のふ出ぐゝや【後】反土でと出ゝふ【吉】エヤト鯉ぐふよんて。

【後】初とめらゝう【吉】だゝん右ゝ。折の角十四句ぐど

出るものがるなどで。エヤヤんてせべト 秩 よるてせべめて
まろう 吉 よせ。ぶるるまろよ。エヤヤんてせべ名指
うう向いて。潮来もうぶるうふ雲ていうふ雲の書
のようなん。名ぶるう 秩 めされ笑と指へ
山内鯉のうまふ 秩 見ヤヤ。ろろ初が鯛のこく赤ろう。二表
いく茶漬出る
同ぶ流いど解ふ来れる弥と。大指ぶ鯉のうま蔵。
皆赤ちろ赤ちろの内ぶ指ぶぜへ 吉 浜てへ
モウそろ。桜てへいてらじゃわへう。サヤ。潮来と

赤やとべー 秩 アレヤヤ。今わとぶ道と教へて
られと男ぶもせふのぶさの迎ぶみらァ 吉 ちんみァ
ありゃ。私ぶ。おてと系てへ宵みねてれ
さのぶ 秩 可笑さいほんでやと。行みへ系ふを
同ぶ変ぶ 吉 ヨイく おぶいく。寝に来ん
ふれぶられけ斬り 因れさるぷこと社系へとおんう弟中海
しとおふを私めてりまぷ。ぶぶるまと 吉 ウ
おいへ廉島行ふ四へ 桜へさ多へ先ふ系てへぶ

いくらぐらい 亦 アイ 押揚おく百五十。いくらぐらい
二百ばかりより 吉 十二 押揚。おしあげとは如何なる
わけぞ 鍔 ハテよく四文と生のを押揚と言道理
なるぞ 亦 アイさあらばでござりまして。ぜんげんで二
百。押揚でござりまして又おあげ申しなおのこと
あられば別に百五拾出申ると。宮ゝ世界おあ極ふ
さうまことたんと五拾の遠でござりまして 鍔 そん
なら酒をいくらぐらい 亦 アイ 夜さりおあげ申しまして
わらじの翌おあげ申しまして四百ばかりより 鍔 まだまだ
う 亦 何ハヤ私どもはいくらぐらい 吉 ふ 遠
ちやまをあ 鍔 そんなら 亦 まだいろ。江戸でもやちんは
新地のあるかぎりで二百ばかり。おりゝ遠の
亦 賃ハ安いのんだ。 吉 サアゝ客人お待兼ね早く亦 揚
てもらはう 鍔 アアいく。一重五拾ばかり 亦 ハイゝ異ない
ちやくばかりまして 吉 ふ 吞ませよ。モウおつゝハ
者を食わせうと 亦 ハイいやもう

鯉をげ（ふつ）こんやーでも行ごと八日てごろうでごろう
まうと 後 ナニさうでもあるめ（ごろう）踊をとと歌ひて
ぞろう 食せろふちうんざろ とふ 是ハ和歌八番紙仕立
ありなく ちくらもる
（遠く）毎富の男 吉 ヨウト茶てあうじと。ゴウ今ふ和紙
やうちんお茶とわるまる
拵てうぶ品貸をあ（の）方（岩）てとのう 男 イエ 和歌ふ
お渡ーあられまーー宜ーーー

なぐご 毋 ハイあの島ちこちよの島ちもちもと 吉 うさうら
こちつい遠ちなく 浜 物見の亜へ。さの雲神崎で
いのこどやあく 吉 コ浜てくぶよく沈ちこちこ風沈
剣ぐく流剣四郎と名と重れぐら。おれい潮来く
いこちあこ助。如鼻ちこ物こうふこひ変。如でこぜこと
の子物ぐ出蓮さこちこのよちもこ チウ〳〵ト鼠等で
ふふぐこと 浜 おつ子一四くこ雲あめ迎ぐく寝ぐ潮来の通す
鼠助ら 毋 ハイ向ちよ家根の亜んでちえこぐ潮来
ぐぐぐうまと 浜 まぐやぐこさハわく 吉 おここで
をりちア 毋 あまぐこと毛ちる拓河岸こ一里八町中
やちと 浜 瀬ぐいこちあもあんこ吉孤ぐすこ孤ちる
うこ。さこと孤ぐ。蓮い川湯ぐの 吉 寝ちよんぷぐど
浪ぐまぐぐ。池の井沼雲ちぐ 浜 ウ。コウあぐく。
けい川の中れ梯梧ハあんぐ 毋 ハイ見井間あふぐこて
拓こう雲四ぐぐぐうまと。むこちこ山梯の先き風
絵井つげこと中湯と 吉 ア妻蘭

みあぐ。宮ハ屋ぐ遠くハ[illegible]ぐ深い[illegible]ぐ

亦 ハイ 永徳寺ハ[illegible]ぐ箱でも宮ハ落れべめ。〳〵と

まつせね。モノ桃子わぐうれ者でもて[illegible]と[illegible]ぐ

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 浜 宮ハ行とい[illegible]ぐ 亦 ハイ

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 浜 何ぐ 亦 [illegible]ぐ[illegible]ぐ。

新左衛門

吉 [illegible]ぐ[illegible]ハ何の[illegible]ぐ 浜 [illegible]ぐ[illegible]ぐ

[illegible]ぐ 亦 [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 亦 [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

中ぐ火ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 浜 [illegible]ぐ

きぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 吉 [illegible]ぐ[illegible]ぐ

[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 吉 [illegible]ぐ[illegible]ぐ。 浜 [illegible]ぐ[illegible]ぐ。 亦

物[illegible]ぐ。 吉 永徳寺四百[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 浜 [illegible]ぐ[illegible]ぐ

成寺ぐ 亦 [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。 吉

何ぐ 亦 [illegible]ぐ。その海[illegible]ぐ

[illegible]ぐ。 浜 [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ。

[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

ぐぐぐ

つくまつと。はしをハヤもぶ〜〜へいでろい橋ごげふやまと
がみくふまんぐのかたらべい孫りてみ〜〜やまへ 浪 はし
うくまぐうくう 面 ハイ家サ這のやくと一の橋でござ
つくまつと 浪 名所四ケ所ヲ詰さしてあるヨ 吉 何ご
ものぐアノ家ふ行もぐ出てあ〜〜。はしより四ろくぐ
べくべと。ハイア家〜〜等ろ面かな洲の角ろまぐる 面 家サ一の
橋。先ご二の橋三の橋ど呼くはえまと 吉 あんご
はしごかの高い十二の橋。あ〜〜アヌモット大きふ橋ろ
かくろんぐぶ。さつくアア何ご。溝のくぐさんぐ〜何
ワくくさくご 浪 ゆのくくく

とのまんじゅう 函 ひくまつ 坂本町 こさかの川
城中をぐるりの川の名ふようる川中ふ
ようぶむろあぶまちひらる中屋いくんくまくあり 吉 めの山屋
ハあんぐ 函 あれハえびを売る えびやでぐらはと
ハ名ようまこちの 函 向ぐ稲荷山ちくいぐぐの稲荷
さあぐこぐいる 浜 ちゃ茶屋 江戸ちくちくで一面
のハぐぐたいそくあんぐ。アノアレ明神さんの家根ぐ
ひくそ茶屋で。川名ふ門のあり家ぐ女郎屋とうん
えるる。 函 ハイあれぐ中屋ぐぐぐぐはて 吉 コウアンさん
向の義の名ふ川の字乃あるる川手屋とうあう
屋ぐらう 浜 あるる陸くくぐくくさぐくよ
まつる ハリトウ。茶ぐぐ向の西ふあんぐ。エ中宮
ぐらう中屋ッ。右傍ふ赤れくくくくくハ江戸風
ふ大文字で一字一枚ふ記くくぐ威勢ぐく
江戸のくぐ 函 赤松の西サ江戸ぐぐ誠くあくう
まくくくく。関中江戸着ぐぐぐぐまと 吉 ぐぐう
ぐぐ 後 ハエ。アノ神酒ぐ売ふある網手桶でぐぐぐ

矢的屋間・矢的・矢的地・榎木屋間・兼蔵

二つのぐんそ若さん・ひさ地じやようく壹る女

そそるの 五 ハイ 雅さんぢいさるゆとぢうやをぬ

ぢよい女郎さんぢこぢうやを 浪 もう 揚手

とさ行く・いつもうふくさのむぜ 五 ハイく 吉

浦ふ屋ぢいくどゐ行く 五 ハイぢとゐ名さの弱蔵

くぢうやと・浦ふ屋赤松屋こさのや 柚宝屋

浮船屋 江口屋 蝶表屋 酒安さち 孝屋 弓利屋

屋ぢのわか行きとぢうやをぢうく

笑ふもぬ・且那さんぢこぢとおぢ主中まうく

おぢ蔵主ふるゆうち波さんぢをぬつくせんぢ公

中宿の亭主 よくおぢ主ふさうやうく 五

ぢらくくよる。ぢうづれの宿ふ人ふ

行ぢ屋ぢ

ぢるうわう

且那さんぢぢ行おつをゆうくぢのんやまとぢ

中宿おわぢうふれゃを 宗内の者 コレハようくおぢ主ふ

さうやうく・二階おわぢうふれゃを 表人中宿の二階

よる。茶ぢどもる

てつ四 サア且れさあがさあ〳〵魚おごもいぶりまうせう。
供
後 ちさくふ大さんてよりぶサアく〳〵いつべ五〳〵トキニ
けせんべいとは佛力を預てり〳〵トきさ。せんべい
さあ〳〵ふ〳〵且れさあ 吉 ヨイおせんぶつけサアく
いろ者ようふり後へう 五 ハイおりあ〳〵まうせう。
中宮のてつ四はきまうそう〳〵はりまり